

施設整備の基本方針について

1 第7回検討委員会での目的

- 宝塚市の新施設の施設整備基本方針を定める。

ごみ処理施設の整備を行うにあたっては、施設整備の基本的な方針を定める必要があります。

以下に、第3回、第4回、第6回の検討委員会で出された意見等をもとに作成した、基本方針の案を示します。

2 基本方針(案)

ごみは市民一人ひとりが排出することから、クリーンセンターの建て替えは、市民一人ひとりの課題です。また、近年クリーンセンターは、ごみ処理だけでなく、街づくりの中で重要な役割を担うようになりました。新たに整備するクリーンセンター（以下、「新施設」という。）も、ごみ処理だけの施設ではなく、子どもから大人まで幅広い年代の方々が集える複合的な施設とし、宝塚市民や施設で働く方が誇りと親しみを持てる施設とする必要があります。本市は、この認識に基づき、市民参加方式による「宝塚市新ごみ処理施設整備基本構想検討委員会」を設立し、以下の基本方針を取りまとめました。

方針1：循環型の街づくりに寄与する施設

ごみ処理施設は、市民が生活しやすい街を支えるための施設です。今後も生活しやすい街を維持するためには、循環型の街づくりに寄与できる施設とすることが重要です。

資源ごみの分別徹底を図り、新施設ではごみに含まれる資源物は可能な限り回収します。施設を利用した環境学習を通して、市民の協力による循環型の街づくりを促進する施設とします。

また、ごみの持つ熱エネルギーを効率的に回収し有効利用するとともに、自然エネルギーを有効利用した創エネルギーシステムや省エネルギーシステムの導入についても検討します。

方針2：安全で環境保全に優れた施設

近年のごみ処理施設は、環境保全技術の発展により、排ガス、悪臭、騒音、振動、排水等による影響を小さく抑えることができ、環境との調和がとれるものとなりました。

新施設でも、地球環境との調和に配慮し、資源の有効利用とエネルギー効率を含めた総合的な見地から、最良の環境保全技術の導入を検討します。また、安全性や危機管理についても万全の配慮を行い、地域や作業環境にとって安全性が確保された施設とします。

方針 3：安定した稼働ができ、災害に強い施設

新施設は、宝塚市唯一のごみ処理施設です。不具合等で処理が止まってしまい、公衆衛生への影響が多大とならないよう、安定した処理を持続的に行う必要があります。

新施設は、導入技術の安定性を備えた施設とし、ごみ量・質による変動にも対応でき、長期間にわたり安定した稼働を持続的に行うことができる施設とします。また、耐久性を備え、災害時にも継続して処理を行うことができる施設とするとともに、災害時のエネルギー供給や避難所等の機能の導入についても検討します。

方針 4：経済性・効率性に優れた施設

ごみ処理施設は、導入技術や設備は費用対効果に優れたものとする必要があり、長期的に使用できるものとするために改修についても考慮した設計とする必要があります。また、人口動態等の社会的変化がある中でも、分別排出等に対応できる施設とする必要があります。

新施設は、施設の計画・設計・建設から運営・維持管理・改修、収集・運搬、また市民の協力までを含めたごみ処理システム全体で、常に経済性や効率性に配慮し、ライフサイクルコストを縮減することができる施設とします。

方針 5：環境学習・理科学習の要となり、学べる施設

ごみに関する問題には、ごみ処理による衛生的な環境の保全をはじめ、ごみの分別や減量化など様々な視点があります。ごみ処理施設は、そういったごみ問題という身近な問題をテーマとした環境学習に最適な施設です。また、物が燃える仕組みや、電気をつくる仕組みなど、理科学習の一環になる要素が集約しています。

新施設は、自然現象や、ごみ問題をはじめとした環境問題の「なぜ」を、体験しながら考えるきっかけとなる、環境学習や理科学習の要となる機能の導入を検討し、子どもから大人まで幅広い年代の方々が集い、楽しく交流でき、学べる施設とします。

方針 6：周辺の景観に調和し、市民に親しまれる施設

近年のごみ処理施設は、施設のデザイン面において周辺の景観との調和が求められるようになっていきます。宝塚市は、市全体の景観や環境に関する街づくりの方針として、「都市の景観が美しく調和し、花や緑に包まれた、環境にやさしいまちづくり」を掲げています。新施設が市内のどの場所に立地しても、景観に調和した施設とすることが重要です。

新施設は、エネルギーの有効利用や、市民の積極的な参加等により花や緑に包まれた施設となることをめざします。また、周辺の景観に調和し、訪れた人が憩える場所とすることで、市民に親しまれる施設とします。